とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	東京幼稚園
活動日時	令和6年秋～春
クラス名（年齢）	全学年
年間テーマ	生き物の探究活動

1．活動テーマ『生き物に親しむ』

<テーマの設定理由（子どもの姿>

当園は、天然芝の園庭や多様な植物の環境下で日常的に自然と触れ合い活動している。自然や生き物の扱い方を理解し親しみを持つことで、命を大切にする意識を持ち、子どもたちの心を豊かにすることを目指す。

2．活動スケジュール

・園全体でLOVOTを仲間として迎え、お世話を行う。子どもたちは、自分より弱いものや小さいものを大切にする意識を得る機会となり、思いやりや愛着心を育む。・移動式動物園で様々な動物を学び、触れ合う。事前にクラス毎に図鑑を用いて学習し、絵を描いて自分の図鑑を作成して学びを深める。・事後学習として、翌日画用紙にクレヨンで動物の絵を描く。クラスの友だちと協力してお絵描き動物園を作成する。友達の絵からも新たな発見や興味を持つ機会とする。

3.環境をデザインする（活動のために準備した素材や道具、環境設定）

・LOVOT（ロボット）
・移動式動物園
・iPadでの活動記録

4.探究活動の実践

・日常的なLOVOTとのふれ合い、親しみを育む
・移動動物園での生き物とのふれ合い活動、事前学習
・絵本製作や、お絵描き動物園の製作を通し振り返り活動

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
①LOVOT 全体集会で子どもが案を出し合い、LOVOTに「マロン」と名付けた。登園すると「マロンちゃん起きてる？」「目を触るとかわいそうだよ」「会いたいから、お弁当頑張って食べて会いに来た」「お手紙書いたよ！」と日々集まり、マロンのお手紙掲示板も作成。「マロンちゃんは何食べるのかな？」と気に掛ける様子もあった。 ②移動動物園 図鑑を用いてクラス毎に事前学習を行ったところ、興味を持った子どもが自主的にお絵描きをし、自分だけの図鑑を作成していた。動物たちとのふれ合いで、「図鑑で見ていた動物！」と喜んでいた。	

<振り返り>LOVOTの導入は、愛着心の育みだけでなく、泣いて登園していた子が楽しみに登園するようになったなど、当初の予想以上の子どもたちへの好影響をもたらした。
移動動物園は、事前・事後学習も子どもたち主体の活動を行うことができ、わくわくしたり楽しみながら活動とすることができた。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	東京幼稚園
活動日時	週一回
クラス名（年齢）	年少、満三歳児クラス
年間テーマ	音の探究活動

1．活動テーマ『リトミック』

<テーマの設定理由（子どもの姿）>

当園は年少クラスよりピアニカ演奏やリトミックなど、日常的に音楽教育に取り組む。ピアニカ指導の前段階として年少・満三歳児クラスでのリトミックの内容を充実化し、音楽への興味関心の導入のため実施。ピアノの音に合わせ身体を動かし、子どもの身体能力や社会性を育むことを目指す。

2．活動スケジュール

・保育者の弾くピアノの音に合わせて歌を歌い、踊ったり体操をしたり身体を動かす。
・ミュージックパッドを活用し、自分で音を鳴らす。感性だけでなく、表現力や自主性を磨く機会とする。
・クラスの仲間と共に参加することで、友達と息を合わせたり、協調性や連帯感を育む。

3.環境をデザインする（活動のために準備した素材や道具、環境設定）

・ミュージックパッド

4.探究活動の実践

<活動内容>

・週１回、リトミックの時間を策定（30分間）
・日常的に音楽や歌、ピアノの音に親しむ

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
・教諭のピアノの音に合わせてドレミファソラシドを身体を動かして表現した。 ・お製作で自分が作ったトンボを持って、「とんぼのめがね」を歌って踊ったり、メガネ越しに幼稚園内を探検した。 ・別日、子どもたちは色とりどりのミュージックパッドを興味深そうに見つめたり近づく。教諭がパッドを押して音を鳴らすと、びっくりしたり顔をほころばせる子がいた。 ・二人一組になって、教諭が弾くピアノの音を聞き、ミュージックパッドの同じ音を探すというミニゲームを行った。 パッドを鳴らしてみて、「こっちかな」と、違うパッドを鳴らして音を探した。 ・順番にパッドの上を歩いて「ドレミファソラシド」を鳴らした。ゆっくり歩いて鳴らす子もいれば、早歩きして音階を楽しむ子もいた。	

<振り返り>リトミックでのミュージックパッドの導入は、子どもたちがわくわくしたり楽しみながら音階に興味を持つきっかけとなった。「早くやりたい！」と順番を待っている子が多かったり、顔をきらきらさせている初めて見る表情があったり、絶対音感かのように音を一発で当てて才能を開花させる子もいた。日常的な保育中でも、ピアノに興味を持つ子が多く弾いてみる姿があった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	東京幼稚園
活動日時	秋～春
クラス名（年齢）	全学年
年間テーマ	砂の探究活動

1．活動テーマ『泥だんご製作』

＜テーマの設定理由（子どもの姿＞

園庭の砂場や井戸の設備を活用し、砂遊びや泥遊びの充実に取り組む。
主に光る泥だんご製作を通して、砂や土の性質を学びながら、社会性や想像力、集中力をはじめとし様々な発達を促すことを目指す。

2．活動スケジュール

・園全体やクラス毎での外遊びの時間内で、教諭や異年齢の友達とともに、砂や土の感覚を楽しみ、性質を学ぶ。
・バケツやシャベル、ふるいなど様々な砂場道具を使いこなすことで操作性を育み、砂や土を固めてケーキや山などの見立て遊びを行なう。

3.環境をデザインする（活動のために準備した素材や道具、環境設定）

・砂
・砂場遊具

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

・砂場遊び
・粘土遊び

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
・丸いスプーンに砂を詰めて、カップに乗せてアイス屋さんと楽しむ子どもがいた。 ・「砂がさらさらで崩れちゃう」「濡れてるところは固められた」「水を持ってくる！」と、友達と会話しながら砂の感触や性質に気付き、ジョーロに水を汲みに行き、砂に水を含ませてだんごを作っていた。 ・雨の日に外遊びができない日は、粘土遊びを行った。 ある日、子どもが粘土を丸めて小さなだんごをたくさん作っていた。入園当初は難しくてできなかったが、集中力とともに、手先を器用によく動かすことができるようになったことを実感した。	

＜振り返り＞泥だんご製作では、砂場の砂を違うものに更新したタイミングで、「固めやすい！」と団子作りブームが起こり、教諭や上の学年の子が作る様子を見て真似て作る子どもが多かった。すぐに割れてしまうときもあったが失敗から挑戦し、作った作品をたくさん並べるなど、忍耐力や集中力を育んだ。また、粘土で小さいだんごを作る練習をする子もいた。